

毎日かあさん
(仮)

第三稿

大岡俊彦

登場人物

サイバラ	(35)
鴨	(35)
息子	(6)
娘	(4)
淑子	(58)
犬の桃ちゃん	
愛ちゃん	(27)
早期子育ての精	(40)
ボス母	(43)
母 1	
母 2	
母 3	
母 4	
母 5	
保育園の先生 1	(26)
保育園の先生 2	(40)
女性編集者ハセガワ	(29)
兄	
(以下、ゲスト)	
遊園地の親父 1	
遊園地の親父 2	
カンボジアの少年兵	
ボスニアの難民の子	
保育園の女の子 1	
保育園の女の子 2	
園長先生	
編集者	
スチュワード	
カンボジアの物乞いの子	
ヌイクン	
カンボジアの家族	
タイの小さなお姉ちゃんたち	
インドのレンガ運びの母	
インドのレンガ運びの子	

売春窟の置屋の女の子
ミヤンマーの母親
保育園の男の子1
保育園の男の子2
いとこ兄
いとこ妹
ブラジルのガイド
ブラジルの船頭
カンボジアのガイド
カンボジアの屋台の主人
数学教師
タクシー運転手
公園の似顔絵かき
看護婦

○ 昼下がり、サイバラ家、六畳間

六畳間のちゃぶ台でまんがをかいているサイバラ (35)。

N 『はじめまして。西原理恵子といいます。まんが家です。2年前に家を建てました。』

○ 同、サイバラ家外観

サイバラの家、全景。

二階建てのコンクリート打ちっ放しの外観。カメラ、家の中へ入って行く。

N 『私の青春時代はDCブランドというのが大はやり。黒服、板ばり、コンクリ』

× × ×

80年代のDCブランドの店内。マヌカン。矢印つきの文字で解説。

「黒服」「板ばり」「コンクリ」

× × ×

N 『これが子供心にかっこうようて。そんな家にしてもらうたら、』

○ サイバラ家、リビング―六畳間

リビングは無機質なDCブランド店内風。それぞれ矢印つきの文字で解説。

「全室板ばり」「カベコンクリうちっぱなし」「かんせつ照明」「へんなアート」

「かべかけテレビ」「オブジェ」。

その隣の六畳間。

対照的に、モノの多いぐちゃぐちゃの部屋。N 『一室しかないたたみ六畳間に家族全員が住みつき、万年床、テレビつけっぱなし、おもちゃと子供全ぶちまけ』

ちゃぶ台の上に小さいTV、そこでサイバラ仕事中心。

万年床に、息子(㊟)、娘(㊞)、おもちゃ。鴨「お父さんの場所あけなさい」

と、カップメンと新聞持って入ってくる鴨(35)。おもちゃと子供をけりわけながら、

座る位置を確保。

N『いまだリビング未使用』

誰もいない、かっちょいいリビング。

対象的に、六畳間にすみついている家族。

鴨、タバコをふかして、

鴨「この住みづらい家はさあ、おまえの見栄とか生い立ちとか一発逆転しめしめとか田舎もんとか、その悪いところ全部が形になった家だな」

サイバラ「(超くやしい) はいその通りですお父さん」

鴨「家は人を語る。リピートアフターミー。」

サイバラ「(超くやしい) 家は人を語る。六畳間より大きい部屋に住んだ事ない人は、六畳間以上の部屋の使い方がわからないです」

○ 同、庭

犬の桃ちゃんがうろろしている。

サイバラと娘が手をつないでカメラの前。

後方でおろろする祖母、淑子(58)。

鴨がくわえ煙草で、大型カメラを構えている。

鴨「もつと下がって下がって！ いや、前！」

サイバラ「どっちだよ！ なによ急に写真撮ろうって言い出して！」

鴨「だってしばらくカメラに触ってないし。アレ？

どうすんだっけ。…ん？ ひとり足りんぞ」

サイバラ「ああっ！！」

塀から傘を広げて、とびおりようとする息子。

サイバラ「うおおおおおー！！！！」

サイバラ、息子の所まで行ってぶん殴る。

N『家族を紹介します。6才の息子と』

手をつないだままの娘、ニコニコしながら
いいように引きずられている。

N『4才の娘』

プシュッと缶ビールの開く音に振り向くサ

イバラ。うまそうにビール飲む鴨。

サイバラ「どっからビール持ってきたー！！」

子供ふたり引きずって鴨にとび蹴り。

N『だんなは昔戦場カメラマン、今アル中』

鴨「だって露出設定とかぜんぶ忘れちゃって…」

サイバラ「それは飲む理由にならん！」

後方でおろおろしている淑子。

N『あと、「ちよつと一ヶ月子守りして」といわれて上京、4年間自分の家に帰してもらえない母』

わやになっている家族。

N『毎日毎日まんがばっかかいてた私が、恋をして、子供が生まれて、主婦になるなんて』

○ 回想、台所

おそるおそるアサリをかきあげにしよう

として、水分で大爆発させるサイバラ。

サイバラ「大失敗——！！ ああもうなんでみんなこんなコトでみんなのお——！！」

のぞきこむ息子と娘。カラが飛んでくる。

N『私は、かあさん』

○ (回想終わって) サイバラ家、庭

5人が集合写真におさまろうとすると、

息子、青虫5匹の串刺しを出し、

息子「やきとり」

サイバラ「うわああああ——！！！」

ひっくり返ったところでカメラの自動シャ

ッター。めたくたの5人がうつっている。

N『毎日、かあさん』

○ タイトル

「 毎日かあさん 」

○ 絵日記扉『4月某日 おともだち』

○ サイバラ家、仕事場

壁には、さきほどのダメ写真。

他にもいくつかの家族写真。

最後に、逆さまになった熱帯の写真。

タイトル『春』

おだやかな日射しが差し込む、サイバラ家
二階の仕事場。

仕事中のアシスタント愛ちゃん(27)。

サイバラ、ぼーっと窓外の庭を眺めている。
N『春である。雨のふったあとの庭は、いいにお
いがする』

その庭では、息子と淑子と犬が遊んでいる。

サイバラ「ん？」

息子が腰をぬかして柳の木を指さしている。

○ 同、庭

息子「うわーうわー！」

サイバラ「どうした：うわーうわー！！！！！」

柳の木の裏に極太の青虫がびっちり。

わきわき動いている。

× × ×

ビニール袋を手にガタガタ震えるサイバラ。

息子「(半泣き) おかあさんこれ本当に『はらぺこ
あおむし』なの？」

サイバラ「(半泣き) うんそうだよお友達だよ
：だから早くこの袋に入れてよ」

息子が青虫をつかむと、青虫ぶんぶん暴れ
る。怪獣のようなキシシャーという擬音。

息子「おかあさん！怒ってるよう！怒ってるよう！
(涙目)」

サイバラ「(腰をぬかしながら) 大丈夫こんにちは
って言ってるだけだからこんにちはって！！」

息子が青虫を握ると、汁が飛び出る。

息子「みどりのしるがでたよー！！(ふりほど
こうとする)」

サイバラ「それは薬！ 体にいいからつけときな
さいっ！！」

× × ×

40匹の青虫がビニール袋入りに。

息子「おともだち飼うんだよね」

サイバラ「ありがと」

袋をブチまけ側溝にばしゃーと捨てる。

息子「お友達に何するのー！ー！！」

サイバラ「およいでどっかいくのっ！！！」

○ 翌朝、庭の側溝の前

息子「おカーさんむしくん茶色になってる」
サイバラ、強硬に無視。

○ 絵日記扉 『4月某日 ぐへー』

○ 雨の夜、サイバラ家、寝室

窓の外は風雨。布団の中のサイバラ。

N『さて私は雨の日であろうが風の日であろうが』
振返ると額に冷タオル。顔赤い。

N『たとえインフルエンザ高熱の日であろうが、
毎晩酒を飲まないと一日が終わらない夕チで、
またその習慣だけはかかした事がなく』
朦朧としながらも、こっこっこつと、
芋焼酎一気のみ。ゲフー。

○ 昼間、商店街、立ち飲み屋の前

じじいたちが昼間から飲んでいる。

娘を連れて買い物中のサイバラ。

サイバラ「ガソリンいれてーよー」

娘「どしたのかーちゃん」

N『子供ができおかあちゃんとなってからは、昼
酒はさすがにあきらめ』

○ 夜、サイバラ家、風呂

N『がまんできずに夕めしから飲むと気絶した』

湯舟の中で沈むサイバラ。気絶に気づく。

2人の子供は気づかず遊んでいる。

○ 夜、サイバラ家、仕事場

仕事場のサイバラ。後ろを振り向くとゾン

ビのように子供達がこつちを見ている。

息子、目をこすりつつゆらーりゆらーり。

息子「絵本よんでー」

娘「よんでー」

サイバラ、聞こえないふりをして仕事に向かう。ふりむくと、

息子「絵本よんでー」

娘「よんでー」

サイバラ「…」

○ 同、寝室

息子「今日はこれとこれ」

娘「いっぱい読んでー」

サイバラ「辞典はやめてー」

絵本の他に辞典まである。

N『でもおおかあちゃんは酔っぱらいたい。その結果』

布団の中で、子供を両手に、

片手に絵本、片手に芋焼酎。

N『布団、絵本、芋焼酎』

サイバラ「そしてスーホの白い馬はプハー」

息子、焼酎くさい息をあびる。

N『アンド布団、絵本、大吟醸』

サイバラ「おいしいケーキがやけましたープハー」

娘、日本酒くさい息をあびる。

× × ×

イカゲソを片手にサイバラが帰ってきて、

布団に入る。

N『洗いたてのシートと大好きなぬいぐるみの寝

室は、今晚もすごい安居酒屋のかおり』

息子と娘、すっかり寝ている。

イカゲソを食べながら、サイバラぐっへー

と酒精を吐く。

○ 朝、庭の側溝の前

息子「おカーさんむしくんこげ茶色になってる」

サイバラ、強硬に無視。

○ 夕方、仕事場

このシーンスローモーション。

後ろの気配に気づくサイバラ。

手書き文字のタイトルが重なる。
手書き文字「こそそと小さな話し声が聞こえる。
ふりかえると、ドアの下の小さなすき間から二
人の小さな手がでている。」

- 絵日記扉 『4月某日 娘酒』
- 夜、サイバラ家、六畳間

兄と鴨が晩酌中。

娘、天使のような顔ですやすやと寝ている。

鴨「ぼくのむすめぼくのむすめー(涙目)」

N『娘が生まれ、毎晩娘酒をしている夫に、私の
兄が先輩として言った』

兄「鴨君」

鴨「ハイお義兄さん」

兄「娘は上手いぞ。気をつける」

サイバラ「上手い？」

- 夜、寝室

寝ぼけた娘が立つ。

サイバラ「どしたのおしっこ？」

娘「おとしゃんがかぜひくの。しんぱいのしんぱ
い」

毛布を鴨にかけて、隣にちよこんと寝る。

鴨、声押し殺してうれし泣き。

サイバラ「たしかに上手い」

- 翌日、昼下がり、遊園地

娘「あれのる」

メリーゴーランドに女の子達が行列。

娘、のる。親達は外から手をふる。

古くてせつないサーカスっぽい音楽。

一周目。

最高の笑顔で手をふる女の子達。

鴨をふくむ父親達も笑顔で手をふる。

通りすぎて去ってゆく娘達。

背中越しにこっちを見ている娘達。

父親達、なごりおしそう。

二周目。

娘達、また笑顔で手をふる。

寂しかった父親達、狂喜。

また去ってゆく娘達。

おいていかれた父親達に、寂しい音楽が重なる。父親達、涙目。

三周目。

また娘達、一番の笑顔で手をふる。

親父達、泣いている。

親父1 「そうやってわらってかれてー」

親父2 「いつか絶対いなくなるー」

サイバラ 「おやし全泣きじゃねえか」

鴨も号泣。缶ビールをぶしっとあけている。

娘達、振返って笑っている。見えなくなる。

置いて行かれた親父達。

また娘達が笑顔でやってくる。

号泣しながら手をふる親父達。

N 『どこの娘も上手くやっているようだ』

○ 絵日記扉 『4月某日 おかたづけ』

○ サイバラ家、六畳間

サイバラ 「おかたづけしなさい！」

びびる息子、激怒するサイバラ。

息子のおもちやが散乱中。

サイバラ 「電車はおもちや箱、大事なものは宝物

箱！ 私がやってたまるもんかっ」

そこへ魔法のように、早期子育ての精登場。

タイトル 『早期子育ての精』

早期子育ての精 「ハイハイどーも早期子育ての精
でーす」

フリップを出して、上のシールをめくると、

フリップ 『親ができない事は子もできない』

早期子育ての精、魔法のステッキでばん

ばんと叩く。

サイバラ 「…おかたづけー！！！！！」

○ 同、庭

息子、無心にだんご虫をとっている。

息子「いっぱいとれた。おかーさん！ケータイ電話かしてー！」

息子、サイバラのケータイをひらき、だんご虫をばらばらと置いて、かっしゅんと閉める。

サイバラ「何。今のはなにー！ー！」

息子「おかたづけー。ケータイ電話って虫かごに似てるでしょ」

サイバラ「わかったお前の頭につまってんのはおがクズだろっ！！！！ 耳から出せっほらっオガクズっ」

息子の頭をぶんぶんやるサイバラ。息子気を失いそう。

早期子育ての精「いやーまだまだ。先は長いよ」
風にふかれてたばこを一服。

○ 絵日記扉 『4月某日 チャレンジ』

○ 夕方、サイバラ家の玄関内

息子元気に帰宅。

息子「おかーさんうんこもらしたー」

サイバラ「はーいお帰りなさーい（つくり笑顔）」

○ 同、トイレ内

サイバラ「わあすごいこんなにたんまりと。いつ

もらしたのー（つくり笑顔）」

息子「おゆうぎの時間」

サイバラ「ソレ朝イチじゃないかー！！！」

息子「だまってたからバレなかったよ」

サイバラ「それで今は夕方の五時じゃないかー！ー！ー！！！！」

息子「みんなとサッカーしてた。あはは。ちよつとジャマだった」

○ 翌朝、玄関内

サイバラ「いいかつ。トイレ我慢して帰る時自分を
ちを見ても自分ちだと思ふなつ。便意は気をゆる
したら最後だ」

息子「うん！！」

○ 夕方、玄関外

サイバラ、玄関から出てくると、
息子、ぶるぶるしてそーっと歩きながら帰
ってくる。

サイバラ「…」

息子、家を通りすぎる。

サイバラ「こらどこへ行くこら！！」

息子「限界にチャレンジ」

親指を立てて、ぶるぶる震えている息子。

サイバラ「そんな修業するなーーーー！！！！」

○ サイバラ家、六畳間〜鏡台〜六畳間

ここ、スローモーション。

タイトル（手書き文字）「たえている後姿。とゆ

うのをながめるのが好き。」

娘、左手にぬいぐるみ、右手にはさみ。

はさみを入れてみたいのをこらえている。

息子、フスマの小さな穴を見て、指をもう

少し入れたいのをこらえている。

娘、おばあちゃんの口紅のフタをあけて、

自分に塗ってみたいのをこらえている。

息子、ドライバー片手にビデオデッキをの

ぞきこんでいる。

タイトル（手書き文字）「ほぼ100%ゆうわくに

負けて私にどつかれる運命。」

○ サイバラ家、六畳間

N 『春先のいやなもの』

サイバラ、驚愕。兄妹が走って隣の部屋か
らきやーきやー言っ出てくる。

N 『フタのあいたペンを持つ兄妹』

手元のアップ。ペンのフタあきっぱなし。

サイバラ「なにかいたのー」

息子「てん」

娘「ぎず」

○ 同、隣の部屋

サイバラ「天気図」

壁に描かれたカラフルならくがき天気図。
家具やフスマにまで図は広がっている。
横に倒れたままつぶやく。

○ 絵日記扉 『4月某日 コンゴ』

○ 朝、六畳間

サイバラ、目をこすりながらリビングへ。
サイバラ「ん？」

鴨、あぐらの上に犬の桃ちゃんを乗せ、
ぼりぼりと何か食ってる。

サイバラ「こらおっさん！ それドッグフード！」
鴨「なんだコレ、コンゴで食った国連の難民食よ
りうめえじゃねえかっ！！ 日本の犬はいつか
らこんなお犬様につ！！！」

○ 回想、カンボジア、地雷源

立ったまま銃を離さずに、汚いおかゆをす
すっている少年兵。

鴨「あのゴム長の少年兵は、どこからさらわれて
きたんだと思う？！ こっちに銃を向けたまま
泥水すするんだぞ！」

○ 回想、ボスニア

ボロボロの家の二階から大きな石を落とそ
うとしてフェイントをかけて楽しむ子供。
下にいるカメラマン時代の鴨、びっくり。

鴨「ボスニアで俺を遊び半分で殺そうとしたあの
ちいさな子は何年難民めしを食ってたんだ
か！」

○ (回想終わり) サイバラ家、六畳間

ビールを一缶、二缶、三缶一気飲みして、

鴨「日本人は今日から全員米食わないでドッグフード食ってるー！！！！！」

サイバラ頭を抱える。

サイバラ「朝からああもうこの人こうなったら一日中止まんないのよ」

鴨「おまえも食え！！」

サイバラ「(食べてみて) あほんとだおいしい。」

鴨「な！ つまり戦争と犬と子供だ！！そもそも

だなっ！安保闘争における屈辱的(ビール飲む)いや応仁の乱までさかのぼるっつっ！！！」

サイバラ、聞いているフリ。

○ 絵日記扉 『4月某日 水平線』
○ 海

4人家族で海に来た。

サイバラ「ホラ海だよー」

子供たち、わーーーーーとかけていく。

鴨「まだ早かったかなー。」

サイバラ「でも喜んで…、」

子供たち、まっすぐ海へ入っていく。

サイバラ「喜んで…。」

鴨「うわっ！ おぼれてるおぼれてるっ！！！」

鴨、ダッシュ。

子供たち、歓声をあげながら、まだ沖へ。

サイバラ「私が思っている以上に、やつらはあほうか。」

× × ×

ずぶぬれの子供たち。

サイバラ「いいですかー水平線にむかって走ってってはいけませんー」

子供たち「はい。」

子供たち、また海へ走っていく。また海の

中。きやあきやあ、ゴボゴボ。

サイバラ、ダッシュ。

× × ×

サイバラも子供たちもずぶぬれ。

サイバラ「海の上はあるけません。」

子供たち「はい。」

息子、両手で印を結ぶ。

サイバラ「修行してもあるけません」
息子「ええっ」

息子、変身のポーズ。

サイバラ「変身してもダメだーーーー！！」
息子「変！身！カキフライマン！！」

砂浜にごろごろ転がって砂を全身に。

娘「変身！トンカツマン！！」

兄の真似してごろごろ転がる娘。

子供たち、海へダッシュ。

サイバラ「待てコラーーーーー！！！！！！」

○ 走る車の中

バスタオルでくるまれてる子供たち。

息子、くしゃみ。娘、くしゃみ。

車の窓から海が見える。

N『水平線より一つ手前の海の色。黒みたいな青。
私の一番好きな藍色を、子供たちに教えてあげ
ようと思っていただけだったのに』

サイバラ「…夏以外の海にはつれてこないように
しよう。」

自分もバスタオルにくるまれている。

○ サイバラ家、庭

このシーンスローモーション。

だきあう笑顔のサイバラと泥だらけの息子。

タイトル（手書き文字）「息子は犬くさい。」

○ 絵日記扉 『5月某日 おむかえ』
○ 夕方、保育園

保育園の門。サイバラ、迎えにくる。

サイバラ「かえるよー」

N『女の子はおひめさまごっこやおままごとが好
き。とくに育て分けたワケでもないのに』

部屋の中でおままごとする女の子達。

娘、顔をあげる。

× × ×

一方砂場で泥まみれになっている男の子達。

男の子達、日本語にならない叫び声で興奮している。

N 『園庭のすみに、3〜4人ほど毎日必ずドロの中にすべり込んで、カキフライになっているお子達アリ』

サイバラ 「毎日毎日どこのバカかと思えばウチのバカか」

女の子1 「男の子ってやーね」

女の子2 「ほんとねー」

サイバラ 「年下にバカにされてるし」

サイバラ、息子に

サイバラ 「帰るよ」

息子 「おおおおおげ」

サイバラ 「帰るよおおっ！！」

息子 「お」

音が聞こえるほど豪快におしっこもらす。

サイバラ 「…」

× × ×

サイバラ、外で待っている。

サイバラ 「おきがえすんだ？」

息子 「うん！」

息子、下半裸。

サイバラ 「何で一秒でバレるウソつくかねあんたは(怒)」

○ 帰り道の路上

三人で自転車に乗って帰るサイバラ。

うしろに息子、前に娘。

N 『おしっこもらすくらい楽しいなんて。こども
の時間ってすごいなあ』

みんな帰ったあとの砂場。

○ 朝、サイバラ家、台所

「保育園連絡帳」を書いているサイバラ。

息子、せかす。

息子 「なにやっつてんのー、早く行こうよー」

サイバラ 「待ちなさい。連絡帳すら絵を入れるのだ。なぜならかあさんはまんが家だから」

連絡帳の文面の最後に、息子の似顔絵がワ
ンポイントで。

○ 夕方、保育園

迎えに来たサイバラに、先生が。

先生1「お母さんの連絡帳いつもイラストがある
ので、職員室でみんなで見えますよ」

サイバラ「むむ。読者がついたからには」

○ 朝、サイバラ家、台所

サイバラ「ギャグを入れねば。」

連絡帳のアップ。『毎日ぼうや』と題した

4コマをかきはじめる。

○ 夕方、保育園

先生2「あ、いつもみてます。楽しいです」

サイバラ「受けたからには」

○ 朝、サイバラ家、台所

サイバラ「さらにおもしろくしなければ」

サイバラ、連絡帳を前に最後のコマで悩む。

息子と娘がはやく行くこうとうながす。

息子「おかあさんチコクしちゃういこー」

サイバラ「ちよつと待って！ オチがあまいから、
やりなおすからっ！！」

4コマ目、『ぼうやりんごまるのみ』と書
いて、悩む。

○ 朝、保育園

急ぐサイバラ、息子、娘。

サイバラ、突然足を止めて恐怖の顔。

サイバラ「来た」

先生達がモーゼの海のように割れ、ボス母
がのっそりやってくる。子供を5人連れて
いる。

お母さん達にあいさつしていた園長先生、
びくつとして道をあける。

園長先生「あっお母さんおはようございます」
ボス母「どうも」

前を過ぎてゆく。

先生1「園長先生？」

園長先生「あの方私よりこの保育園歴長いのよ。

7人子供がいて10年通ってるらしくて。」

ボス母、ギロリとにらむ。

あわてて愛想笑いする園長先生。

サイバラ「保育園の主」

ボス母、聞こえたのか、サイバラをギロリ。

サイバラ「あつ。おはようございます」

ボス母「オハヨウ」

先生1「あ、サイバラさん、今日もまんが入って
ます？」

サイバラ「もちろんッス」

○ 夕方、保育園内、教室

机を集めて母親達の集まり。先生1、2。
母親達の手元にプリントが配られている。

ボス母、中央にでんと座る。サイバラ、端
に座る。

ボス母「プリントは配ったの？」

先生2「ハイ全員に。みなさん、バザーの件です」

母1「すいませんこの日は私法事が」

ボス母、ギロリ。

母1「ありません」

ボス母「そう。ありがとう」

母2「炊き出しのカンパが」

ボス母、ギロリ。

母2「：足りてます」

ボス母、サイバラにギロリ。

ボス母「まんがつて何？」

サイバラ「はっはい！ わたくし、多少なりとも

絵がかけますので：」

先生1「サイバラさんのまんが、面白いんですよ」

ボス母「そう」

○ 夜、サイバラ家、仕事場

必死で原稿に色を塗る愛ちゃん。

愛ちゃん「アンタこの忙しいのに仕事しなさいよっ！」

後方で看板を描いているサイバラ。

サイバラ「だってええ、あの主こえーんだもん。

愛ちゃん手伝ってー（泣）」

愛ちゃん「先生そういう人間関係弱いですよね！」

○ 保育園、バザー会場

『父母会バザー』の下手な看板。

誰もそれを見ずに通り過ぎている。

ボス母「こんど雑誌に投稿してみたら？ 案外佳

作ぐらい入るかもよ」

サイバラ、愛想笑い。振返っておちこむ。

サイバラ「プロの仕事って気づいてもらえない」

○ 朝、サイバラ家、台所

徹夜あけで帰る愛ちゃん。

愛ちゃん「お疲れしたー帰って寝ます。アレま

だかくんですか？」

サイバラ、またも連絡帳で悩んでいる。

サイバラ「なんか大河まんがになってきてやめられないんだよー（泣）」

連絡帳には、『第35話 ぼうや、保育園の主を退治の巻』と。

○ 朝、保育園

ボス母「そういえばまんが見せてよ」

サイバラ「イツイヤ下手なんでいいです！」

○ 仕事場

このシーンスローモーション。

息子とサイバラがならんでおえかき。

タイトル（手書き文字）「がんばってひらがなの

練習しようよ、と言うと、お母さんの絵も力がないから一緒にれんしゅうしよう、と言われた。」

○ 母1の家、中

ピンポーン、とサイバラパン焼きの道具持ってくる。

母1「いらっしやーい」

その脇を男の子3人がわー！とかけていく。

サイバラ「やっぱ男の子の家ね。」

母1「中に入っても言える？」

中へ入ると、ふすまの枠だけが残っている。

サイバラ「男の子兄弟家名物、家中ふすま骨無し」

ふすまを抜いて走り回る男の子達。

父3、赤ん坊を抱いている。

サイバラ「あどーもおじやまします」

母1「ウチの父さん末っ子ばっかかわいがってね」

サイバラ「やっぱかわいいですよね末っ子」

父3「いやその何というか」

男の子達、ドカーンと何かにぶつかる。

父3「抵抗力弱いし。」

愛想笑いが凍るサイバラ。

ピンポーン、と玄関に母2、3、4、5。

○ 同、台所

小麦粉を練っているサイバラ、母1、2、3、4、5。

サイバラ「へーこーやってつくるんだ」

後方では子供達がまたなんか壊した音。

母1「なんかね…、無になれるのよ」

サイバラ「つつこめませんお母さん」

無言でみんなギョツ、ギョツ。

サイバラ「しかし男の子を持つ母親同士仲良くなるなんてね」

母2「男の子4人も生むもんじゃないわよ。元気

なだけでホント生み損よ！ 私この7年間午前

中に顔洗った事ないもの！」

母3「私んち、家からハミ出て道路まで子供部屋

なの」

母4 「上の息子は高三でようやく落ち着きが」

母1 「えええ！あと12年もバカなの？！」

母3 「そんな私の人生は」

母4 「あと疲れてほしくてサッカー教室通わせてら、体力ついちゃって」

後方で男の子達また何かにぶつかってる。

母5 「そうそう、女の子だとキッサ店入れるらしいわよ。公共の場でしからなくていいんだって」

母2 「うそだあつ」

母4 「女の子のお母さんは化粧してハイヒールはける余裕が」

母1 「うそだあつ！」

後方で男の子達また何かにぶつかってる。

× × ×

チーンとオーブンが開いて、パン焼き上がる。パンを試食。

サイバラ 「おいしーさすが」

母1 「ちがうの私じゃないの。うちのパン焼き器が優秀なだけで私なんか（ものすごい表情）」

まだ背景では男の子達が暴れ放題。

母2 「せめて一瞬でもいいから……」

母全員 「静かにしろっ！」

男の子達、びくつとなつて静かに。

母全員、ハイタツチ。

○ 朝、台所

ため息をつくサイバラ。

連絡帳の表紙 『お子さんが今どういう家庭環境にあるか、正確にかいてください。私たちと共有しましょう』

サイバラ 「今、どういう環境か……正確に」

連絡帳をかくサイバラ。

連絡帳 『夫が家出して二ヶ月前くらいからいません。』

夫が「ひゃっほー」って無邪気に言ってるイラストつき。

○ 次の朝、台所

連絡帳『母、タイ、ラオス国境で漁師をするので
二週間祖母が送ります』
魚のイラスト。

○ タイ、ラオス国境付近の川

漁師の体験をさせられているサイバラ。
編集者同行。
メコン川のようなところで投網する。

○ 昼、六畳間

息子「おかーさんテレビ」
サイバラ「ああ!!!」
連絡帳『家出した夫発見。パレスチナで投石して
るCNNにちらりと写りました』
投石している市民にまじって鴨がカメラに
面白い顔をしているイラスト。

○ 夜、台所

駄目な感じのケバい化粧と服を着ているサ
イバラ。
息子「いってらっしゃい」
サイバラ「いってきます」
連絡帳『母、キャバレー勤め、二週間の予定。多
少生活すさみます』

○ 連絡帳のページをめくってかかれる文字

連絡帳『夫、沖縄で吐血』

○ 朝、保育園

先生2「あの…いろいろ大変でしょうが、お子さ
んのためにも規則正しい生活を。」

○ 朝、台所

サイバラ「お母さんの手作りケーキでピクニック
ってのはどう？」

息子「ヤダーーつまんないー」

サイバラ「おかあさん正直に書いてると先生に注
意されちゃうんだよ（遠くを見る目）」

○ 夜、サイバラ家、六畳間

誰もいない家。

サイバラが一人ですわって待っている。

時計のすすむ音。ちゃぶ台の上の連絡帳。

連絡帳『夫、沖縄で吐血』

連絡帳を訂正。

連絡帳『夫、家出先の沖縄で吐血』

○ 夜、沖縄のホテルの一室

外は台風。

鴨、電気をつけず、ケータイで話している。

鴨「ウチのバアさんも同じ病気で死んだんだ。食
道に血のカタマリができて、それがはじけると
ドバツ。ドバー。オレの肝臓、処女が下ネタふ
られた時ぐらいカタイってさ」

サイバラの声「それってお酒が原因ってこと？」

鴨「そうだよ」

サイバラの声「お酒はやめようと思わないの？」

鴨「やめようと思う」

サイバラの声「ウソつけ」

テーブルの上には、泡盛のボトルとグラス。

鴨「今まで飲まない日なんて一日もなかったから
ね。しばらくここを動いちゃだめなんだって」

サイバラの声「マイルド別居」

鴨「…うまいこと言うね」

サイバラの声「うまくないわよ」

○ 夜、仕事場

ドアをあけて入ってくるサイバラ。

愛ちゃん「あ先生でんわ終わりました？」

サイバラ「うん」

席につく。考える。

愛ちゃん「面白いオチ思いつきました？」

サイバラ「もっとドツカンと笑えないとねえ。」

壁の写真をながめるサイバラ。

ひきつった面白い顔をいくつかする。

サイバラ「…おもしろい顔をしたって笑いの神が来ない。…笑いって難しいね」

○ 昼、サイバラ家、台所

娘を叱るサイバラ。

サイバラ「だめじゃないの！もうこれ以上やらないで！！」

娘「(泣)う。う。…かあちゃん。おかしやしゅきー」

サイバラ「上手いなあもう。フツーに泣いてくれよ」

娘「しゅきー！ (大泣き)」

○ 同、寝室

サイバラ、晩酌絵本中。

サイバラ「犬はなんてなくの？」

娘「わんわん」

サイバラ「猫は？」

娘「にやおーーん」

サイバラ「じやお母さんは？」

娘「おかあしゅきは、おとうしゅしゅきーってなくの」

サイバラ「！！(すぎっと引く)」

娘「それでね、おとうしゅきは、おかあしゅしゅきーってなくの。」

サイバラ「…酔いがさめるわ」

娘「おとしゅんはいつ帰ってくるの？」

○ 沖縄の街を無頼風に歩く鴨

○ 飛行機飛ぶ

○ 飛行機内

窓の外を見ると、早期教育の精があぐらをかいた状態で飛んでいる。

早期教育の精「ハイハイども、早期教育の精です」

サイバラ「だんなど別居なんて子供の早期教育によくはないって言いたいんでしょ？」

早期教育の精「いや」

サイバラ「あの男は、学校を脱走して、日本も脱走したひと。そもそも家庭というものを狭く感じてたのかも。そう思って大きめの家をたてたんだけどな」

早期教育の精「酒好きはなおらないね」

飛びながら冷や酒を一杯。

飛行機を追いこして飛んで行く。

サイバラ「…はじめての吐血だったら、もっと肝座ってねえだろうなあ」

○ 沖縄の街

むかえる鴨。だきつく息子。

サイバラ、微妙な距離。

娘、ててと走って

娘「おとしやんだいきらい。」

鴨、目から涙が吹き出す。

地面に飛んだ涙がじゅーっと乾く。

娘「うそー。おとしやんだいしゅき」

鴨「うおーおーおー」

鴨、娘を抱きしめる。またも地面に飛んだ

涙がじゅーっと乾く。

冷めた目で見るとサイバラ。

鴨、どういう顔をしていいか分からない。

娘、んしょんしょとふたりの手を握らせる。

サイバラ「…」

鴨「…」

青空と入道雲。走り回る息子。

サイバラ、もう一方の手の離婚届をポケットにしまう。

N『沖縄の空は青い。私たちも青い。思ったように、私とあの人は話ができない』

- 絵日記扉 『某月某日 結婚したころのこと』
○ 国際線飛行機内

隣の席の鴨と編集者は酒で寝ている。

スチュワーデスの出した飴を、がっちより

全部つかむサイバラ。

サイバラ「もっと下さい」

N 『アジアに仕事に行く時はいつもバッグの中に
あめ玉をつめる。』

- カンボジア、路上

飴を子供にあげるサイバラ。

N 『物乞いの子が、子供の顔になる。』

- アンコールワット（たとえば駐車場）

様々な国の観光客。白人、アジア人…。

7歳の男の子（ヌイくん）が、お菓子とか

パチもんのグッズを両手にばたばたと走り

回り、7カ国語で物を売りつけている。

韓国人と話して商談不成立、サイバラ一行

（サイバラ、鴨、編集者）の所へ。

ヌイ「コンニチワいちどーるかってくださいーい」

サイバラ「なぜ日本人と韓国人を見分けられるん

だ。私はアメリカ人とイギリス人なんかさっば

りだぞ」

ヌイくん、鴨のでかいプロ用カメラをみつ

け、

ヌイ「カメラマン？カメラマン？」

鴨「（カンボジア語で）うん」

ヌイくん、カンボジア語でなにか鴨と話す。

楽しそう。

- 朝焼けのアンコールワット

サイバラ「うーうーうー二日酔いー」

編集者「朝日が昇るのは5時半です。急ぎましょ
う」

鴨「あ。ヌイクン」

宮殿の入り口に、笑顔のヌイクン。

N『このヌイクン、商売もせずついてまわる。ただもう大きなカメラが見たいさわりたい』

鴨のカメラを純粹な目で見るヌイクン。

N『カメラを持たしてもらった時のヌイクンの目。大人になってはやく自分のカメラを買ってね』

サイバラ、空のフィルムケースにあめをつめる。

サイバラ「いる？」

ヌイクン、とびあがって喜ぶ。透明のケー

スの中にあめを色んな角度から見ると。何か早口で言って、走って去っていく。

○ 走る車の中

アンコールワットの前を通りかかる車。

サイバラ「あ」

N『帰り、走る車の中からバナナを持って私達をさがしてるヌイクンを見た。私、バナナもらいそこねちゃったんだなあ。ニッパヤシの鳥小屋のような家々、まっすぐな道を思い出す』

まっすぐの道を走る車。

家々がすぎてゆく。

○ 街

サイバラと鴨、白人家族とすれ違う。

子供3人は、白人。もうひとり、

アジア人の子が混じって、仲良さそう。

サイバラ「よくああいう一家いるよね」

鴨「うん。親が死んだ子はこのへんにいっぱいいるから、養子にもらうの」

子供たち、わけへだてなく楽しそう。

鴨「子供ってさあ、もつとカンタンにもらっちゃってもいいんだよな。それで時々その国につれて行けばいいんだよ。あなたはここでうまれましたよ。って。」

×

×

×

アジアの野原で、その光景を見る子供の後姿。

× × ×
鴨「ぼくはカンボジアでたくさんの死体をみてきたから、カンボジア人の子供が一人、ほしいな」
サイバラ、驚くが、驚かない。

サイバラ「いいよ」
鴨「うん。…ありがとう」

サイバラ「うちの子たちとケンカするかな」

鴨「するよ。子供だもん」

サイバラ「どっちが勝つかな」

鴨「どっちも」

サイバラ、手をつなぐ。

○ タイ、小学校の教室内

サイバラ「ちは」

みんな、おおあわてで両手を合わせる挨拶。

鴨、その様子を撮影。

後ろの壁にハンモックがいくつ吊るされている。

N 『教室のうしろにハンモックがならんでいる。

のぞき込むと、赤ん坊の弟や妹をあやしなうながら眠ってしまった小さなお姉ちゃん達』

すうすうと赤ちゃんを抱いて眠っている女の子達に、あめを置いてゆくサイバラ。

○ インド、路上

レンガ運びの母子。

N 『インドでレンガはこびのお母さんの横で半分じゃまになりつつ手伝った男の子は、あめ玉をさし出すと、何度も手をふいてうけとり、お母さんに走って持っていった』

○ タイ、売春窟の前

売春窟の縁側に座るサイバラと小さな女の子。

N 『売春窟の置屋の女の子は、私が将来のことや

食べ物のことや、何を聞いても「考えたことがないから分からない。」としか答えない』

出勤する10代の売春婦達。

N 『二人の前をこれから店に出る十代の女の子がたたくさん通りすぎる。せっけんと香水と肌に合わない白すぎる化粧。ピンクや水色の、あわい色のドレス』

女の子の無表情。

N 『彼女はやっぱりどこも見ていなくて、私はあめをあげられない』

○ 朝、ミャンマーの村

サイバラ、井戸で水を飲もうと。

N 『ミャンマーの小さな村で朝起きたら、むかいの家の赤ん坊が昨夜死んだとのこと。

おくやみを言いに行ったら、「今度はもつとめんどうをみれる母親のところに生まれてきてほしいです。」そう言って朝食のしたくを続けた』
母親、台所で朝食のしたくをしている。

熱帯の空。

N 『みなさんおげんきで。夏になると、あの子たちを思いだす』

○ タイトル 『夏』

○ サイバラ家、縁側

その空からパンダウンすると、水遊びしたりスイカを食べているサイバラ、息子、娘。

○ 絵日記扉 『7月某日 続・早期教育』

○ サイバラ家、六畳間

息子、紙とえんぴつを持ってくる。

息子「ねえぼく字をおぼえたいよ！ お勉強する！！」

サイバラ「(引き気味) 息子にやる気が」

まいおりの早期教育の精。拍手。

早期教育の精「お母さん来たよっ。今だよ。今教

えるんだよっ」

サイバラ、『あ』のカードを出す。

サイバラ「あ」

息子「あ」

サイバラ、『あ』のカードを出す。

サイバラ「じゃあこれは」

息子「け！」

サイバラ、猛烈に不満。

サイバラ「うちの子は、できないけどやる気のある子。うちの子は、できないけどやる気のある子」

息子「つぎは？つぎは？」

サイバラ「チョコ買ってあげるから勉強やめよー

ー！！！！」

息子「いやだ勉強するー！！！！（泣）」

サイバラ、『あ』のカードを出す。

サイバラ「（涙目）これは」

息子「て」

サイバラ「ミニカー買ってあげるからやめよー

ー！！！！」

息子「ねえお母さん『し』に点々がいたら『む』

って読むんだよねっ」

サイバラ「わかったプールびらきしてあげ

る！！！！」

息子「やったープールプール」

○ 同、庭

子供プールではしゃぐ息子。

夕方。夜。まだプールではしゃぐ息子。

ふらふらになっているところをサイバラに見つかる。

○ 夜、寝室

サイバラ「できないのにやる気だけはある子のやる気をつぶしてしまいました」

布団の中で鼻水をたらしている息子。

落ち込むサイバラ。

息子、『あ』のカードを持って早期教育の

精に

息子「け」

早期教育の精、ちがうと手をふる。

○ 朝、サイバラ家、台所

早期教育の精とサイバラ。

タイトル「早期教育の精との会議」

早期教育の精「あんたさーもう今さらさーめっちゃくちや後期じゃん？」

鼻からたばこの煙を出す。

サイバラ「わかってるよ！！んなこたあ！！！（涙目）」

早期教育の精「どーしてもっと早くからやんなかったワケ？」

つまようじで歯をほじくる。

サイバラ「間違えるたんび息子の頭もぎたくなんだよっ！！良好な親子関係のためになまけたんだよ（逆ギレ）」

早期教育の精「でどーすんの」

サイバラ「こつちが聞きてーよ！！！！！」

○ 朝、家の前の道路

娘、地面にチョークで落書き。

息子、道路の白線の上をよろよろと歩く。

息子「落ちたらワニの海。うわ！ うわあ！！」

ぽてっと白線をふみだす。

× × ×

生ゴミ置き場のゴミ袋のすき間に体をうずめる息子。

サイバラ「なにそれ」

息子「いましめに10分生ゴミに変身」

サイバラ頭を抱えていると、

娘、サイバラをつんつん。

娘「かあしゅんかあしゅん。あいうえおかけた」
道にかかれたつたない『あいうえお』。

驚くサイバラ。

早期教育の精「早期教育成功っ」

拍手する早期教育の精。

息子はまた白線から落ちそう。
サイバラは納得いかないが娘をなでる。

○ サイバラ家、庭

このシーンスローモーション。
手書き文字のタイトル「汗だらけの息子をだきし
めたら、子供のころ田んぼでつかんだどじょう
みたく、どりゅんってすべった。気色わるくて
手ばなした。」

○ 絵日記扉 『7月某日 台風の日』

○ 大雨の路上

強風。傘を前にさしながらむかうサイバラ。
よろよろ。

○ 同、保育園

サイバラ、迎えに到着。

女の子達は雨宿りしている。

女の子1 「ぬれちゃったね」

女の子2 「ふいてあげる」

一方、庭では、

男の子1 「わーーーーー」

サイバラ 「なぜさけんている」

男の子1 「うおーーーー！！ わーははは！！！」

強風に立ち向かいただ仁王立ちの男の子1。

サイバラ 「どうして男はこうなんだ。」

傘を鉄の柵にカンカンやる男の子達。

男の子2 「わーーーーー」

サイバラ 「傘をさせ」

雨水が猛烈に吹き出している雨どいに、ビ

ニール袋をかぶせてせき止めている男の子。

サイバラ 「袋をつめるな」

泥まみれでサッカーしている男子達。

サイバラ 「サッカーするな」

頭を抱えるサイバラ。

息子、鉄棒をかじってじっとしている。

サイバラ、むう。

× × ×
回想、六畳間。

息子「お母さん血ってどんな味？」

サイバラ「雨のふった次の日の鉄棒をなめたら同じ味がするよ」

× × ×

サイバラ「そうか、母の教えを体験中か。傘は？」

息子「わふれた」

サイバラ「こんだけ大雨でなんで忘れるんだあー
ー」

息子「わふぁんなーいい」

○ 夜、公園

このシーンスローモーション。

サイバラ、息子、娘が花火。

美しい三日月を見てサイバラがメール。

メール『。。。おとうさん 月がとってもきれいで
すよ。同じ月を見ましよう。』

花火に夢中の息子と娘に、月を指差すサイ
バラ。ふたりよろこぶ。

返信『曇りでみれない。』がっかりするサイバラ。
× × ×

帰り道。手をつなぐ三人の背景に月。

空にメール画面が重なる。

メール画面『。。。おとうさん 月がとてもきれいで
すよ。夏の月をいっしょにみましよう。』

○ 絵日記扉 『8月某日 おしごと強化月間』

○ サイバラ家、縁側

娘「ねえお兄ちゃんが柱にらくがきしたよ」

息子「おかしさんボクやってないよ」

柱の落書きを必死の表情で指差す娘。

落書きは娘の目の高さ。

娘をにらむサイバラ。

サイバラ「あきららかにキミの目線じゃねえか」

○ 同、庭

息子、虫かごをもっている。
サイバラ「カブト虫さあ、お世話できなくなるから放してあげなよ。フダンは土の中にいる虫なんだよ」

○ 数時間後、庭

サイバラ「まさかカゴごと土に埋めるとは」
庭に中途半端に埋めてある虫かご。

○ 同、縁側

落書きの柱の隣で、ひとりお茶を飲むサイバラ。
耳を澄ますと、蟬の声。

しかし視線は家の中。

N『家のどこかに放たれたセミがいる(怒)。
現在子供2人を実家に帰し、お仕事強化月間中。』

× × ×
田舎の川。

息子と娘、いとこ(男女)と川遊び。

N『二人共大好きないとこのお兄ちゃんお姉ちゃん
と遊びまわっているんだらうね。』

× × ×
縁側の柱の落書きに触るサイバラ。

N『おかあさんはもうさびしくて』

○ 同、仕事場

後ろのドアの隙間を気にするサイバラ。

N『誰もいない家で』

○ 夕方、商店街

家路につくたくさんの人々。

うしろを振り返ってみるサイバラ。

N『たくさんの人ゴミの中で。いつも君たちをさがしてしまう』

- タイトル『秋』
○ 冷たい雨、病院外観

傘をさして道を行くサイバラ。

- 病室

サイバラ「またお酒飲んだんだ。このあんぼんた
んが」

涙目になっている鴨。

点滴やら、いろんな管がささっている。

鴨「かあしや」

サイバラ「もうお母さんじゃないっ」

手を出す鴨。両手で握るサイバラ。

サイバラ「…」

鴨「…」

N『一度はなした手は、もいちどにぎると、かる
い』

鴨「もう行っていいっっ」

サイバラ「なんで？」

鴨「はずかしいからっ！！」

去るサイバラに、後ろから声をかける。

鴨「もうねっお酒やめるからねっ！！」

サイバラ「うそっけっ！！！！！！」

- 病院、外

玄関から出てくるサイバラ。傘を広げる。

冷たい雨がふり続けている。

- 病室

鴨の隣におかれた離婚届。

- 病院、外

歩き出すサイバラ。背中が丸い。

サイバラ「すぎだったひとをきらいになるのはむ
つかしいなあ」

○ 病室

鴨、離婚届をみている。

○ サイバラ家、仕事場

窓の外はまだ雨。

壁に貼られた色々な家族の写真。

いすに座って長考中のサイバラ、煮詰まつたのか、うしろにもたれ、天井越しに後方の壁を眺める。

さかさまの写真たち。

一番端の、さかさまの熱帯の写真が、この時だけ上下ちゃんと見える。

日付けは「1998.8.31」。

サイバラ「…あの時の写真、こんな時だけちゃんと見えやがって」

○ ブラジルの空港、外（回想）

外に出てくる、独身時代のサイバラ、女性編集者ハセガワ、現地ガイド。

サイバラ「（肩をおさえて）あー超エコノミー症候群——」

ハセガワ「地球の裏側でまだ見ぬ大物釣りがしたいって言ったの先生じゃないツスカ」

サイバラ「そんな思いつきの文学くずれの冗談を実行すんなよお」

ハセガワ「あ、鴨志田さん、こっちこっち」

鴨、こちらへ歩いてくる。熱帯の蒸気のせいか、スローモーションに見える。

ハセガワ「いつもの人これないんで現地調達。このへんのゴタゴタでごはん食べてる戦場カメラマン。通称鴨ちゃん」

サイバラ「日本人？」

ハセガワ「のハズですよ」

鴨、ニカッと笑う。

サイバラ「その媚びた笑顔むかつく」

鴨「ハイ？」

サイバラ、なんかむかつく。

ハセガワ「はいはい早速出ましょう！ ほらノラ
犬みたいにケンカ売らない！！」
サイバラの袖をひく。

○ ジャングルの中の川、ボートの上

鴨、ビールケースを3箱ドーンと積む。
盛り上がる一行、ガイド2人、船頭。

ハセガワ「カンパーイー」

サイバラ「うおおおおおゆれると酔うー」

ハセガワ「うげー」

鴨「もう吐いてる人いまーす！」

写真におさめる鴨。

○ 同、中州付近、ボートの上

みんなできあがった状態で釣り糸をたらず。

ハセガワ「釣れませんねえ」

サイバラ「：ちよつと」

ガイドに耳打ち、ガイド船頭に指示、船を
中州につけさせる。

そこには現地の美しい花（ハイビスカス？）
が群生。

サイバラ、大慌てでその奥の草むらに身を
かくす。

鴨「：あつ。ひみつの花園——！！！」

サイバラ「うるさい近づくな！！！」

下半身ぬいでしゃがんでる。

鴨「ガイドさん御一緒に！ ひみつの花園——！」

ガイド「ヒミーツノハナゾーノ！！！」

ハセガワ「サイバラさん小さい方なら川で泳ぎな
がらすればバレないっすよ！」

サイバラ「阿呆——！ デカイ方って言ったような
もんじゃねえか——！」

鴨「ひみつの花園——！！！」

○ 同、次のポイント

ハセガワ「しかし釣れないッスねえ」

サイバラ、川に飛び込む。

ハセガワ「今度は小さい方ですね！！」
サイバラ「うるせえっ！！」

× × ×

船の近くまで戻ってきたサイバラに、鴨が
先ほどの花を一輪プレゼント。

鴨「ひみつの花園」

サイバラ「いつの間にとってきたんだ！」

鴨、カメラを構えるとサイバラも花を髪飾
りにポーズ。

ハセガワ「ノッてんじゃないっすか」

船頭「〇〇〇（現地語）」

サイバラ「なんだって？」

ガイド「ワニがいるから上がった方がいいって」

サイバラ「先に言えー！！！！」

○ 別の取材、カンボジアの空港、外

出てくるサイバラ、ハセガワ、現地ガイド。

ハセガワ「うあー！カンボジアは蒸すわー！」

サイバラ「あのう今回もカメラマンが同行してな

いんすけど」

ハセガワ「うんまた現地カメラマン雇った」

サイバラ「でもたしかアイツブラジルにいた筈だ

よね」

きよろきよろして待っている鴨。

ハセガワ「こっちの内戦の方が今はホットなんじ

やない？」

サイバラ「なにを好きこのんで」

こっちに気づく鴨。

口にあの花をくわえてフラメンコ風に。

サイバラ「アイツキライ」

○ 夜、屋台街

肩を組むサイバラ、鴨。ハセガワへろへろ。

サイバラ「あー！酔った酔った！鴨さあかなりい

けんじゃん！！」

鴨「あたりまえだよ！16の時から筋金入ってん

だよ！！」

ハセガワ「もうホテル帰ろうよおサイバラさんア

イツキライって言ったじゃん」

鴨「なにおうオレガ嫌いだとうーーーーー！」

サイバラ「キライじゃあボケーーーーー」

× × ×

鴨、灯の消えている店を無理矢理あける。

鴨「コラーーーーー！○○○○（現地語）」

店の主人「（ねむそうに）○○○」

鴨「○○○」

何ごとか現地語で交渉。金を渡す。

カウンターの奥で家族10人ぐらいが寝ている変な店。鴨、勝手にビール出してる。

鴨「勝手にのんでいいって！ つまみは三軒隣で」

サイバラ「どんな交渉力だよ」

鴨「ホラホラ、カンパーイ！」

○ 昼川釣り、夜屋台、昼川釣り、夜屋台で暴れ。

○ 夜、ロジジみたいなのジャングルの民宿の部屋

酔っ払いながら麻雀するサイバラ、ハセガワ、ガイド達。サイバラ立つ。

サイバラ「ちよいとはばかりにひみつの花園」

ハセガワ「完全にネタにしてんじゃないスカ」

○ 同、縁側のような廊下

鴨がひとりでジャングルを見ながら飲んでいる。そこへトイレ帰りのサイバラ。

サイバラ「博打はやんないの？」

鴨「やんないよ」

サイバラ「なんで？スリル満点だよ」

鴨「戦争の生き死に見てると、博打の死んだ生きたなんて」

サイバラ「…つきあい悪いの」

鴨、暗闇を見ながら飲んでる。

サイバラ「あした東京帰ったら、この珍道中まんがにかかなくや。きっとキミ出てくるよ」

鴨「そう」

サイバラ「アレ？ 興味ないの？」

鴨「…別に」

サイバラ、隣に座って一杯飲む。
鴨、飲むペースを崩さない。

鴨「また生きてたら、地球のどこかで飲もうよ」
サイバラ「うん」

酒が切れた。

サイバラ「とつてくる」

鴨「もう寝るからいいよ」

○ 同、鴨の部屋

電気をつけないままで、ベッドに寝っ転がる鴨。

サイバラ、ビール2缶もってきて、座らず窓の外を見る。

サイバラ「さっきはなにを見てたの」

鴨、うしろから抱きしめる。

サイバラ「…私がどんな人か興味なくせに」

鴨、表情をうかがう。サイバラ真直ぐ見る。

鴨、キスのまね。サイバラ真直ぐ見る。

鴨、キスする。サイバラ真直ぐ見る。

鴨「あるよ」

サイバラ、目を閉じる。

ふたり、キスをする。

○ 同、麻雀部屋

別の人を加えて麻雀は続いている。

ガイド「あれ？サイバラセンサーは？」

ハセガワ「たぶん、ひみつの花園」

○ 同、鴨の部屋の外

窓の中に二人が見える。

あの花が庭に自生。まだつぼみの状態。

ゆっくり咲いてゆく。

○ 朝、鴨の部屋

裸でシートにくるまれるサイバラと鴨。

サイバラ「ね、写真とろうよ」

窓際に放置されたカメラに、寝っ転がった
まま手をのばす。思わずシャツターに触れ
てしまう。パシヤ。

サイバラ「うわっ」

上下逆におかれていたので、うつした光景
は上下逆。しかも窓の外の熱帯。

カメラ、ワイヤーとフィルムを巻き
上げはじめる。

鴨「フィルム最後だったみたい」

サイバラ「ええええー」

昨日もってきたビール2缶。

鴨「ぬるいけど飲む？」

サイバラ「うん」

○ サイバラ家、仕事場

回想終わって、仕事場。

さかさまのジャングルの写真。

さかさまに見るサイバラ。

N『ずっと舟に乗っているように揺れていた。ず
っと酒に酔っているように揺れていた。私の好

きな人は、さいしょから酒乱だった』

涙が、さかさまにあふれてくる。

○ 回想、病室

離婚届を前に二人。

サイバラ「わたしとおとうさん駄目になっ

ちゃう。わたし今まで猫ひろったりしたけど半

年以上生きた猫いないの。

わたしといるとおとうさんいつまでもお酒やめ

ないし、わたしといるとおとうさん仕事しない

し、わたしといると…」

鴨「うん。…一度、ひとりでがんばってみる。

きみはぼくをあいしているから、この紙を持っ
てきてくれたんだね」

サイバラ「どうして一緒にいると駄目なんだろう」

鴨「うん。…一度、ひとりでがんばってみる。」

N『最初から、私の夫は酒乱だった』

○ 海

草の大きくのびた道。

N 『私は、日のよくあたる風がよく通る海で育ったので、人とゆうのはもつとかんたんだと思っ
ていた』

○ 都会のビルの屋上

下をのぞきこむサイバラ。

N 『でも彼の気持ちは、高いビルから下をみるよ
うに深くこわいものだらけで、』

○ 海

顔の赤い鴨が、半分つかっている。

片手に酒、片手にグラス。

N 『お酒を飲んではこちらをふりかえり、どんど
んと沖の方へ行ってしまう』

○ 路上

点滴や管をつけたまま、病院服で走ってい
る鴨。

N 『更にその後。またまた吐血をして病院に運ば
れ、脱走。こうゆう根拠のない判断力と行動力
はハンパじゃない』

○ 夜、サイバラ家、六畳間

病院服のままの鴨。

鴨 「いやーその日の夜からさー、今眠っちゃうと
このまま死んじゃうんじゃないかなーってさー
こわくてさー三日間眠れなかったよー。だから
お酒やめた。死ぬのこわい」

サイバラ、怒った顔を崩さない。

○ 海

日のあたるおだやかな海。

N『彼と知りあつて7年。結婚して子供できて離婚した7年。はじめてお酒をやめている。

いつか、日のあたる海がやってきますように』

ひとり浜を歩くサイバラ。

うしろから息子と娘が追いかけてくる。

○ 酒屋の前

つまれた酒びんの前で立ち止まる鴨。

考えて、バタバタして、やっと前を通り過ぎる。

○ タイトル『冬』

○ 絵日記扉『12月某日 かいじゅう』

○ 夜、サイバラ家、台所

12月のカレンダーには締切りが20個。

サイバラ、淑子、息子と娘。食事も終わり。

サイバラ「じゃあお母さん今からまだお仕事する

から今晚はおばあちゃんとあそんでね」

息子と娘「ええええ」

息子「お母さんお仕事しちやいやだあー(涙目)」

娘「おしごとだめえーやめてー(涙目)」

淑子「お仕事は大事ぞねっ！ お仕事がないなっ

たらお米も買えんなっっておもちやも買えんなる

ぞねっ！ おかしも食べれんぞね！ 住む家も

ないなるぞね！ 外で寝んといかんかったらど

うするぞね！！！」

子供達、ああああああと恐怖の顔に。

淑子「外で雨にぬれて夜になってカラスに食べら

れたらどうするぞね！！！」

息子「いいいい(ひきつる)」

娘「うああああ(ひきつり兄につかまる)」

サイバラ「あんたの人生の辛酸はわかったからそ

こまで子供に言うなよ」

○ 同、仕事場

娘「おかしちゃんおしごとしないでー(涙目)」
息子「おしごとはだいたいじなんだよつ。ごはんがなくなっておそとにすむんだよつ！」

娘「うんうん」

サイバラ「思いつきすり込まれてるし」

外の廊下でおえかきを始める息子と娘。

息子「そいでお家がつぶされちゃってー(びびり)」

娘「おかしがぜんぶたべられちゃってー(泣)」

サイバラ「キャラクター化されてるし」

子供のかいた絵『びんぼうかいじゅう』：おかしをとっていく。家をこわす。クチからカラスが出る。うんこする。』

○ 絵日記扉 『12月某日 屋上』

○ 夕方、デパートの屋上

遊具のたくさんある屋上。

鴨「だーっはっはっはっ」

息子を振り回して遊んでやる鴨。

鴨、娘にほおをじよりじよりじより。

娘「ヒゲいたいたいいたい」

それを見つめるサイバラ。

鴨「元氣？」

サイバラ「そつちこそ。どうよひとりぐらしは？」

鴨「だいぶ慣れた。禁酒うまく続してるよ。ホメてよホメてよ。最初の二日がホントつらくてさ

あー

サイバラ「たった二日がまんすりやあどうにかなるのを、おまえは20年できんかったのか」

鴨「できんかった」

サイバラ「アンタさあ、次お酒飲むのは娘の結婚式にしなよ。そこで血吐いて死んでも、もう誰も悪くいわないよ」

遠くで娘が手をふっている。

娘「おとしやーん」

鴨「うん。そうだねえ。」

息子、娘、タタと走ってくる。

息子、サイバラの三段腹をつまむ。

息子「おかあさんおなが出てきたから子供が生まれるんですよ」

サイバラ「うんそうだよ」

鴨「おいっ」

息子「ぼく弟がいいなっ。おとうとおとうと！」

サイバラ「もうすぐだよ。弟」

息子「ホントっ!？」

娘「おとしゃんとおかしゃんは、けっこんしてるの？」

サイバラ「うんそうだよ」

娘「よかったけっこんしてたんだ」

息子、娘、また遊びに行く。

鴨「あんまウソばっか教えないでよ」

サイバラ「いいじゃん。ウソはたのしいよ。ウソ

はウソつかないよ。お話をつくるのは、この現実

にたのしいウソをまぜるってこと。∴それを仕事

○ 同、おもちゃ売り場

クリスマス商戦真っ最中。

息子と娘、猛烈におもちゃ選び。

息子「これとこれっ」

サイバラ「ダメひとつにしなさい」

息子「うー。うー」

サイバラ「はっはっはっ。まよってるまよってる」

鴨「キミはいらぬのプレゼント」

サイバラ「うん。大事なものはもう全部もってる」

鴨「あ、そう。∴それはウソじゃない？」

サイバラ「うん」

○ 夜、帰り道

サイバラ、息子、娘、帰り道。

ふたりは大きな包装箱に夢中。

息子「おかあさん走ろうよ！ はやく家帰って開

けたいよ！」

遠くで、手を振っている鴨。

振りかえるサイバラ。

○ 絵日記扉 『1月某日 はちみつのいろ』

○ 夜、サイバラ家、寢室

いつもの絵本、布団、酒。

娘「今日たかくんとみかちゃんかケンカしたの。二人ともどっちもいけないんだけど、止めに来た山先生がまちがえてそれから西先生が来たんだけど、本当はね、あの先生達は仲悪いの」
サイバラ「よくまあそんなフクザツな人間関係を瞬時に語れるな」

○ 昼、サイバラ家、六畳間

ピアノの指表（五本の指に数字がかいてある）を娘に教えるサイバラ。

サイバラ「じゃこれは何の指？」

娘「わかんない！」

サイバラ「これは1の指これは2の指。これは？」

娘「わかんない！」

サイバラ「なんで山先生と西先生は分かるのにピアノはわかんないの？」

娘「ピアノじゃないの。数字がわかんないのっ」

× × × ×

回想、高校の教室。

黒板にムズカシイ数学が羅列。

数学教師「で、 x と y が z になり、 w と結婚して無限大が生まれた。その方程式の家の隣は新興宗教にハマリ、素因数分解。このとき：」

セーラー服を着たサイバラがまるで分からない顔をしている。

× × × ×

サイバラ「数字がまるでダメかつ」

娘「まるでだめっ」

サイバラ「その気持ちはよく分かる。そういう時はな、他の楽しい事を考えるんだ」

娘「たのしいこと？はちみつの色とか？」

サイバラ「そうそれ！ そっからおはなしつくるの！」

娘「はちみつの中のわたし」

サイバラ「いいぞ。それから。面白くなってきたぞ」

娘「んーと、おとしゃんが飛びこんでくるの。どぼーん。それからみんなが飛びこんでくるの。どぼどぼーん」

サイバラ「アハハ。それで？」
話のつきない二人。

○ 夜、サイバラ家、寢室

相変わらず、布団絵本酒。

娘「あのね、保育園の先生がね、お昼寝のとき私だけとんとんしてくれないの」

○ 保育園

先生1「とんとんしておりますが」

○ 夕方、サイバラ家、六畳間

サイバラ「なんでウソつくのっ」

娘「だってつくり話したら面白いでしょ」

サイバラ「(頭を抱えて) そうかもうそんな所まで私に似てきたか」

息子「とうっ!!!」

息子、二階のベランダから庭に着地。

釣りざおを持って、自分に釣り糸をくくりつけている。

息子「あれ？ なんで落ちるんだ？」

サイバラ「考えて危険なことをする所。誰かさんより強力なあほうになる予感十分。」

つかつかつかと行ってゲンコツ。

サイバラ「ハア：このムチャクチャな所をずっと愛してゆくのかねえ：」

○ 後日、サイバラ家、庭

息子と娘がそれぞれあそんでいる。

息子「♪しゃくとりむーし。しゃーくとーりむーし、しゃくしゃくとり、しゃくとりむーし♪」

息子はひとり尺取虫。

娘はみつつの人形あそび。

犬のさんぼのヒモにぶつかつた息子、今度はそのヒモで波をつくり、尺取虫をつくる。犬の桃ちゃん、突然吠え出す。娘、おもしろがって駆け寄ってくる。犬にさんぼのヒモをつける息子。犬、突然走り出す。

○ 同、路上

犬に引きずられる息子。
走ってついていく娘。

○ 同、サイバラ家、縁側

茶をすする淑子。
まだなにも気づいていない。

○ 夜、走るタクシーの中

サイバラ、ケータイで電話中。
サイバラ「わかつたからばあさん！ それで、警察には届けたの！？」
淑子の声「そこまでじゃないじゃろ」
サイバラ「そこまで事態はすすんだよっ！
昭和の田舎じゃねえんだから、じきに帰ってくるわじゃねえだろ！！ なんかの事件に巻き込まれたりしたらどーすんだ！！ とにかく捜索願い出して！！」

○ 夜、デパートの屋上

立ち入り禁止よりも上の、誰も来ない所。
犬を抱いた息子。娘、怖がってる。
寒い。
娘「どれがおとしゃんち？」
息子「んー、あれ」
娘「あれ？」
息子「じゃあれ」
娘「あれ？」
息子「じゃあれ？」

娘「おうちは？」

息子「うーん、あれ」

娘、息子の手を握る。

○ 同、鴨のアパートの前

鴨、ケータイで話しながら

鴨「うん！うん！ウチの近く走り回ってみる！

もしこのへんに来てて、でも道が分からなくて、
って十分ありえるよね！」

○ 街道で渋滞に巻き込まれるタクシー

○ 同、タクシーの中

ケータイで話すサイバラ。

サイバラ「ああどうしようやっぱり離婚なんかし
たからあの子たちが心傷めてない訳ないし、も
しあの子たちになんかあったら、私があの子た
ちにしてやったコトなんてまだほんの少しで
…」

鴨の声「おちつけ」

サイバラ「…」

鴨の声「おちつけ。今俺も酒飲んでおちつく」
サイバラ「話を一段階ややこしくしないで！」

○ 同、どこかの路上

息子「よしこっちだ！」

娘「こっちいく」

息子「だめ、こっち！」

二人は手をつないだまま。

(犬の桃ちゃんがない)

○ 同、交番

警官「よく行くところは？」

淑子「あそこの公園と、保育所と、デパートと。

でももうみんな探したんです」

警官「いつから帰ってないんです？」

淑子「お昼から」
警官「(時計を見る) 8時。子供さんには長い時間
ですね」

○ 同、サイバラ家近辺の路上

ボス母、母1 2 3 4 5、先生1、懐中電灯
持って集結。

ボス母「どうそっちは見つかった？」

母1「ぜんぜん！」

ボス母「男の子の行きそうな所よっ！ 屋根の上
とか便器の中とかマンホールの下とか、動物園
の檻の中よっ！！」

母5「まだ手分けして探しましょう！」

母2「煙となんとかは高い所よ絶対！！」

○ 同、鴨のアパート近辺の路上

暗闇から走ってくる犬の桃ちゃん。

鴨に抱きつく。

鴨「おう桃ちゃんひさしぶり」

桃ちゃんにはヒモがついたまま。

鴨「…犬ともはぐれたか」

ケータイを出す。

○ 同、サイバラ家近辺の路上

ボス母、ケータイで話を聞く。

ボス母「了解！ みんな！犬が見つかった！○○
町方面！ 連れ去り事件じゃない事を祈りつつ、
現場に急行するよっ！！」

母たち、全員ママチャリ。

先生は保育園のチャリ。

○ 同、走るタクシーの中

窓の外を見ているサイバラ。

N『そうだよ。日曜の夜遅くまで家にもいないで
仕事入ってる私が悪いよ。おとうさんと暮らし
てもいけない私が悪いよ』

サイバラ「(運転手に) 念のためそっちから回って下さい。」

街道から街が小さく見える。

サイバラ「：いた」

運転手「え？」

サイバラ「運転手さん。今通り過ぎた松の湯まで」
運転手「銭湯ですか？」

サイバラ「煙突の上、なんか動いた。たぶん息子」

煙突の上の影。

運転手「(バックミラーみながら) どこ？ 私にや全然わかんないですよ。」

サイバラ、うしろの窓からただ一点を見ている。

サイバラ「私には分かる。何千キロ離れてたって、私には見えるんです」

○ 同、松の湯の煙突の上

下は、きらめくばかりの夜景。

息子と娘、手をつないで寒がっている。

○ 同、路上

ママチャリで爆走しながらケータイ。

母3「いたってー！よかったー！ー！！」

○ 同、松の湯前

集まるパトカー。野次馬。

銭湯の中の電気がついて、主人が出てくる。
到着する鴨と犬。

あやまりまくる淑子。

ママチャリ軍団到着。

警官が煙突を登っている。

ボス母「ホントに煙と一緒だったよ(涙爆笑)」
タクシーから降りるサイバラ。

煙突の上の息子、先に娘を警官に渡す。

泣きはじめる娘の手をにぎり返す。

自分は一人でおりてくる。

淑子「理恵子アンタ友達少ないゆうとったがあ、

随分と多いやないの。」

ママチャリ軍団、サイバラに笑顔。

安堵の涙が出てくるサイバラ。

× × ×

地上におりた子供。泣きじゃくる娘の手を
再びしっかりとにぎる息子。

引き渡す警官。

息子「ごめんなさい。おとうさんのおうちと、お
かあさんのおうちを探してたけど、みつからな
くて」

サイバラ「ホントバカだねえ」

ふたりにゲンコツ。

抱きしめる。

サイバラ「泣いている女の手を放さないなんて、
アンタリッパな男だよ。」

犬、興奮して家族の周りをぐるぐる回って
いる。

○ 海の底

海の底に沈んでゆくサイバラ。

N 『子供の頃からよく見る夢で、海の底から世界
を私は眺めている。息をひそめて時間を止めて、
私はゆらゆらを楽しむ』

海の底に横たわる。水面越しの太陽。
遠く、波の音。

N 『いつの頃からか、そこに波の音が加わった。
その音は心地よく、ますます私をゆらゆらさせ
る』

○ 朝、サイバラ家、リビング

起きるサイバラ。寝ている子供たち。

N 『ある時目をさましてみると、それは私の小さ
な子供の小さな寝息であった』
すーすと子供。

DC なリビングは、すっかり生活感あふれ
る部屋になっている。壁には、天気図、び
んぼうかいじゅうの落書き。
そこに布団しいて三人で寝ている。

N 『最近、あのリビングにも住んでいる。ブランド風味のそれは、なしくずしに我々に飲みこまれ』

二度寝するサイバラ。
がぼっと起きる。

サイバラ 「いかん二度寝したーーーー！！なん
でバアさん起こさーん！！」

大慌てで支度するサイバラ。
子供を起こす。お出かけ用の服を着せる。
自分も無理めメイク。

○ 朝、桜並木

走るサイバラ、手を引かれる息子、娘。
サイバラ 「ホラ早く早く！ おまえのデビュー日
だっしつかりしろっ！！」

娘は落ちてくる花びらを両手でキャッチし
ようとして失敗。

息子は桜吹雪の中でぐるぐる回る。
ぶかぶかの黄色い帽子がぐるぐる回る。

○ 同、小学校の正門

写真を撮るまで小学校の前とは分らせない。
サイバラ 「あ、もう一枚撮って。ココ押せばシャ
ッター」

ケータイを淑子に渡す。

淑子 「ハイ、コンビ」

サイバラ、息子、娘 「ニーーーーーッ」

パシヤ。

写真は、桜あふれる小学校の門。

よそゆきのサイバラ、自分が主役じゃなく
てちよっと怒ってる娘、ランドセルを背負
う息子。

「入学式」の看板。桜吹雪。

○ 公園

帰り寄った公園で、似顔絵かき（西原理恵子
本人出演）の前でポーズをとるサイバラ、息

子、娘。

○ 病室

点滴を受けている鴨。
写メールで入学式の写真を受け取り、涙ぐんで酒をあおろうとして、看護婦に止められている。

○ サイバラ家、仕事場

うしろの壁に、家族の写真、さかさまの熱帯、入学式の写真。
出来上がった3人の似顔絵が壁に貼られる（ほんものの西原理恵子の絵柄）。
中央にサイバラ、両側に手をつないで息子、娘。それぞれの字で、「おれ」「わたし」「かあさん」の文字。
N 『私は素敵なママにはなれないけれど、おかあちゃんにならなれると思う』

○ 路上

鴨と離れて行くサイバラ。
N 『手をはなしてしまったり、』

○ 海

息子と娘の手を握るサイバラ。
N 『もういちど、つよくにぎったり』

○ 仕事場

N 『かいたり』

○ 公園

N 『あるいたり』
親子で散歩するサイバラ。

○ サイバラ家、食卓

N 『カニ鍋を山ほど食べるサイバラと子供。』
『食べた』

○ 海

サイバラが海をみている。
息子と娘、まっすぐ海の沖の方へ。
きやあきやあごぼごぼと海の中。

サイバラ「忘れてたー！ー！ー！ー！！！」
首根っこをつかみに海にじゃぼつと入る。
ふたりにげんこつ。
めたくたな三人。

N 『何度うまれかわっても、おかあちゃんがい
や』